

「男女共同参画社会」へ向けて素敵な人になるためにシリーズ



心の中の太陽が 輝き続けている女性たち

“男女共同参画社会”の歴史の中で欠くことのできない女性問題。「誰かが」ではなく「まず私から」を实践した偉大な先輩がいたからこそ、今、私たちは男女共同参画という理想的な社会へ、前進することができています。心が曇るような、また土砂降りになるようなこともあったでしょうが、それを越え、心の中の太陽を輝かせながら歩み続けているリーダー達の生き方は、女性としてだけでなく人間としても最高です。今回は一部の方しかご紹介できませんが、“男女共同参画社会”における女性のあり方の参考になれば、と思い企画しました。

自由な心のすばらしさを私達に問い続ける「女性運動のバイブル」と呼ばれた人
ベティ・フリーダさん

1921年生まれ。アメリカの女性運動家でもあり、作家、さらにカリフォルニア大学の客員教授という顔も持つベティ・フリーダさんは、常に女性解放運動の先頭に立ち、1966年には、現在女性運動を語る上で欠かせなくなっている全米女性機構（NOW）を設立。

日本における講演においてもセックスと老いの問題をオープンに口にしたり、また著書「老いの泉」の中では、高齢者のみならず、すべての人々に対して第三の年齢へ向けての（人生の三分の一）ありかたを説いたりと常にパワフルに進進し続けるリーダー。著書に、「新しい女性の創造」（大和書房）、「セカンドステージ」（集英社）、「老いの泉」（西村書店）などがある。常に時代を客観視し、一步引いた冷静な目ですばし切り込んでくる力は、時に人に驚愕や衝撃すら与える。

インドの女性運動・農民運動のリーダーとして「緑の革命」を訴え続けている人
バンダナ・シバさん

インド出身。科学・技術・天然資源政策研究財団代表で、



1993年には、もうひとつのノーベル賞を受賞している。日本だけでなく、地球全体が、現在、緑の減少化において年々深刻さを増してきている。その中、世界銀行が提起した「緑の革命」で浮上してきた農業の大規模化・単一作物化の問題点を指摘した「緑の革命の暴力」を著し、近代農業の再生や環境保護を訴え続けているリーダー。

借金と栄養不良の悪循環の中で身動きできなくなってしまう現在の近代的単作農業をやめ、収穫の大半を家族の食料にし、2割程度を市場で売って生活の必需品を手に入れる。それによって子ども達や家族に十分な栄養を与えられていた伝統的農業の復活を強く願い、農業に対する間違った考えの蔓延を防ぐよう日々努力し続けている。

自分の感性に正直に生きた人
向田邦子さん

編集者を経て脚本家に。1929年生まれ。1981年没。

フアッションセンスだけでなく生き方のセンスも良かったということが、著してきた作品の中から伺える。

人の悪口は言わない。自分の感性に正直に、生きる。水を得た魚のようにそのとき、そのときの仕事を精一杯する。自分自身を大切に、人に対

しても気を遣わせない思いやりを持って接する。特別に女性問題について運動していた人ではないが、その生き様に無言の濁を入れられてしまう。参考文献「向田邦子の青春」向田和子著（文芸春秋）

男女の枠を軽々飛び越えた自由人
岡本かの子さん

1889年〜1939年。作家。岡本太郎氏の実母であり、作品よりも明治という時代においてなお、自由奔放に生きたその波乱万丈なる生涯のほうが良く話題に。

柔軟かつ精一杯の命を鮮やかにあらわす作風は、その生き方にも似ている。そのおらかな個性の前では、現代人が持っている野心ゆえ生まれる要領の良さや虚無感は打ち消される。ましてや、男女の枠など関係のない生き方。自分らしく生きることの自由さを教えてくれる。参考文献「岡本かの子」(新潮社)

自分に正直な情熱の歌人。その生き様が、もうバイブル
マリアカラスさん

1923年、ニューヨーク生まれ。自分の限界を限定せず、常に前進し続けた伝説のオペラ歌手。結婚はしましたが、それで

も生涯歌一筋に、音楽中心に生きた彼女の生き方は、情熱的で壮絶。また頂点に上り詰めたかのように見えるときでも努力を怠らなかつた。歌の仕事に対しては、「私はすべての人から尊重されたいのです。一度だって二流になったことはありません。生きるために仕事をするのはなく、自分を認めてほしいから仕事をします。私はサクラを雇ったりしません。拍手を得るためにお金を払う事など決してしないでしょう」という言葉を残し、自らに厳しく妥協することのない道を選んで

男女の区別を感じさせないほどの、その生き様に、舞台同様多くの人魅了されている。参考文献「マリアカラス情熱の伝説」キアレツリ著(新潮社)



「男女共同参画社会」について

市民の方々からひとこと

- ・まずは、自己啓発が大切である
- ・男性の方に、理解を得るための啓発が必要である
- ・男女の問題として取組まねばならないし、職場や地域社会などで活発に議論することを望む
- ・意識づくりが必要なので、もっと啓発をするべきだ。又、女性政策の意見を聞くために、団体、グループの声を反映すべきであり、具体的な施策をしてほしい
- ・男女共生社会づくりの阻害要因についての取組みを明確にすることを望む
- ・男女がお互いに理解することが共生社会づくりに不可欠である
- ・本物の男女共同参画社会づくりを見届けたい

◆原稿募集◆

「男女共同参画社会」へ向けて広く市民の皆様のご意見・主張を募集します。

①こんなコーナーや記事があったらいいなと思われる方。教えて下さい。

②男女共同参画社会に関心を持たれている方。連絡先を教えてください。

女性政策推進室
TEL534-6111 内線1075
FAX536-4044